

# 令和3年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和3年6月30日（水）

## 【午前の研修】

### ○ 説明「思春期版家庭教育支援プログラムについて」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 針谷 英子

家庭教育支援の場で活用されている思春期版家庭教育支援プログラムについて、作成の背景やその特徴などに関する説明がありました。プログラムを実施するにあたっての留意点や、地域のファシリテーターがプログラムを進める意義、また県立学校における実践の様子や事後アンケートの結果などを聞き、受講者は理解を深めることができました。



### ○ 演習「思春期版家庭教育支援プログラムについて」

芳賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 高久 和代

安足教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 若田部 晶子

思春期版家庭教育支援プログラムの一つ、「我が子は思春期真っ只中～思春期の子育ては戸惑いや悩みの連続です～」を体験しました。教育事務所の担当者から、参加者が取り組みやすくなる資料の作り方やプログラムを始める前の心構え、アイスブレイクを実施する際のコツ、思春期の子どもをもつ保護者への配慮、受講者の緊張を解くための言葉かけ、ラベルワークの方法、コロナウイルス対策用のアレンジなどについて説明がありました。受講者はプログラムを体験しながら、ファシリテーターとしての基本的な役割や講師が経験から得たアイデアなど、多くのことを学びました。



## 【午後の研修】

### ○ 講話「子どもの現代的課題について

～子どもの成育環境の変化と心身の発達～

宇都宮大学地域デザイン科学部 教授 大森 玲子 氏

コロナ禍や情報化社会の進展など、成育環境が急激に変化している現代の子どもの心身の発達にとって大切な「食生活」や「生活習慣」について説明がありました。また、乳幼児期の習慣が、その後の子どもの心身の発達に様々な影響を及ぼすという、データに基づいた説明がありました。特に、睡眠時間と肥満、共食の有無と偏食は、関連性が高いとのことでした。大森先生の分かりやすい説明により、受講者は現代の子どもが抱えている課題と、規則正しい食生活の大切さについて学ぶことができました。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・自分がファシリテーターとして活動するようになったら、どのようにアプローチしていけばよいのか学ぶことができました。
- ・自分が思春期だった頃を振り返り、自己紹介と兼ねるという活動が大変有効であると感じました。
- ・親プロを活用するにあたり、感染予防対策をとりながら参加者の気づきや学び、共有の場などを工夫すれば、実施できる方法が分かりました。
- ・先生方のプログラム演習の進め方はとても楽しかったです。
- ・小さい頃の食生活が、いろいろな面で影響を及ぼすことが分かりました。
- ・ネット利用や睡眠時間、栄養が与える子どもの成長への影響の大きさを再確認できました。
- ・大森先生の講話は、とても分かりやすく、興味深い内容でした。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp